

ゴッドマザーに捧げる^{しょうか}頌歌

ラニ スップラマニウム女史がバガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも 1950 年のことでした。バガヴァンは彼女のことを「ラニ マー」と親しみを込めて呼ばれ、彼女の人生は、熱心な帰依者たちに分かち合ってくくださった、数々の光きらめく体験の宝石箱でした。彼女は“A Pilgrimage to the Realm of Peace”『平安の王国への巡礼』（仮題）の著者です。ラジオ サイのラニ マー・シリーズと、ハート2ハートの特集記事である“Mesmerizing Moments With Divine Master”『神聖なる師に魅了される瞬間』（仮題）は、リスナーや読者の間で極めて人気が高く、数か国語に翻訳されています。

彼女は 2012 年 12 月 1 日に他界するまでの数年間、プラシャーンティ ニラヤムで暮らし、身体が衰えていたにも関わらず、最期まで帰依者たちを導き、高め続けてくださいました。

茶毘にふす炎の光輝は、楨の山を覆い尽くし、彼女の亡骸を永遠に消滅させました。未知の宇宙の領域に彼女が還っていくその背景には、岩の丘がずっしりと構え、川は枯渇し、放牧された山羊が生草を食べ、風が炎で生じた煙を吹き飛ばし、太陽が輝いていました。

私たちはラニ マーを失ったことを悲しんでいましたが、それは彼女が解放された瞬間でもあり、あとに残された者にとっては、一時代の終わりでした。



霊性の道

ラニ マーがスワミのもとを訪れるようになったのは、かなり昔の 1950 年のことでしたが、多くの帰依者と同様に、彼女は唯一の目的である霊性の道を懸命に目指していました。そのような帰依者にとって、人生の他の道は決してあり得なかったのです。

彼女は不完全であるがゆえに、内なる完全に向って毎瞬努力を惜しみませんでした。困難が降りかかろうとも、勇敢な魂によってそれらに立ち向かいました。ひるむこともありませんでしたが、英知を結集して困難に向かって突き進みました。彼女はひとりの人間でしたが、常に神の神聖火花になるという目標を貫き通しました。このすべてと、更に多

くのが、彼女を、親愛なるスワミの靈感を与える素晴らしい帰依者にしています。

スワミがご逝去されてから、落ち込んで完全に自分を見失うと、私が隠れて安らぎを得ていた場所がありました。ラニ マーを訪問すること— それは私に霊的な強さをもたらし、同じように彼女にも大きな安らぎを与えていました。それは私の記憶に深く刻み込まれました。彼女は最期の自由を切望していました。彼女と過ごす時間は、滅びゆく身体と不滅の魂という生命の循環、とりわけ霊性の道にすべてを捧げた人生の偉大さを示す、実践体験の授業でした。

完璧な手本

ゴッドマザーは、魂がゴール（神）に向かう旅の準備ができたときに到達します。彼女は川岸から幼い子亀を見守り、子どもたちを育てるお母さん亀のように、私たちを育ててくださいました。

ラニ マーほどの器量を持つ人には、滅多に出会うことはないでしょう。彼女はパティヴラター〔夫にすべてを捧げた貞淑な妻〕であり、彼女の子どもたちや、彼女の姉妹の子どもたちにとっては偉大な母であり、シュリ アーナンダ モィーマー（1896-1982 インドの聖女）の敬虔な信者であり、私たちの親愛なるバガヴァンの帰依者の宝石でした。

ラニ マーと共に過ごした多くの時間、数えきれないほどのスワミとの体験、霊性の師たちとの交流、そして彼女から教わったことを人生の中でチャレンジし、更に霊的な道を成就するのに必要なものを、彼女は愛情を込めて熱心に分かち合ってくださいました。私が一番心を打たれたこととは、彼女の目の前にいると、世俗的な思いや心配事から私の心が離れて、どれほど安らぎを感じたかということです。

ラニ マーは毎回、会うたびにスワミのお話をしてくださり、スワミに帰依するとはどういうことかを話してくださいました。彼女がおっしゃるには、彼女が私たちに話してくださいることで、スワミとの輝かしい時間を彼女に甦らせるという奉仕を、私たちが行っているということでした。

スワミの御言葉に従うラニ マーの従順さは、最も感銘を与えるものでした。彼女はスワミが言われた通りに従いましたが、彼女が従った最も大切な御教えとは、常に約束を守るということでした。あなたが何か約束をするなら、それを大切にし、それに従わなければなりません。そして、ラニ マーは完璧にそれを実践しました。

彼女は、内なるスワミのご指示に常に従っていました。大変な困難にも関わらず、常に微笑みを実践し、こん睡状態の最期の瞬間でさえも、優しく微笑んでいたのです！ スワミが彼女に話されたことを、常に私たちに繰り返し思い出させてくださいました。それは、この人生は単なる夢であり、何が起ころうとも、私たちは照覧者になるべきだと

ということです。



(ラニ マーは右から三人目の女性)

スワミは彼女に、昇進や救済などよりも、マナス シャーンティ (精神的な平安) のために祈るように、ずいぶん昔に助言されました。ですから彼女は私たちにも、マナス シャーンティ (心の平安)、グリハ シャーンティ (家庭の平安)、ヴィシュワ シャーンティ (世界の平安) のために祈るように導いてくださいました。

ラニ マーと共に過ごしたサットサング [善き交わり] は、彼女のお話を聞く者と彼女との両者にとって、特別な楽しみとなりました。スワミは彼女に小グループだけで話すことを望んでおられ、常に彼女は真摯にスワミのご命令に従いました。

あなたと私の間には何の違いもありません

私たちは愛することによってのみ、愛を学ぶことができます。2001年、私は友人を介してラニマーと彼女の妹、サルジュ マーに出会い、その際に、サイの道を生きては何を意味するのかを理解しました。両姉妹は非常に簡素で模範的な生活をされていました。彼女たちに最初に出会ったときから、共に過ごした数えきれないほどの時間に、私はどれほど愛され、元気づけられたことでしょうか。そのことを、私は常に大切に心に

しまっています。

唯一の真理とは、神への信仰の道のみであり、その道を快活に生きなければならないということです！ この道が真実になるためには、それが苦にならず、自然に習慣が身についていなければなりません。喜んでこの道を選び、断固として従い、決して振り返ってはなりません。

彼女がスワミのもとを訪れた50年代から60年代にかけてのある時期は、日が暮れるとただバジャンが歌われて終了していました。マンディールを去る際、スワミが彼女を呼ばれ、おっしゃいました。

「ラニ マー、私がなぜこの人間の姿をとって降臨したかわかりますか？ 私はあなたと私の間には何の違いもないことを、あなた方に悟らせるためだけに来たのです。私とあなたは一体であり、同じなのです」

彼女は臨終のときまで絶え間なく、この真実を実現することに努めました。

—ラジオ サイ チーム—

出典：http://media.rudiosai.org/journals/vol_11/01MAR13/ranimaa.htm